

平成28年度 第2回 橿原市図書館協議会議事録

平成29年2月9日(木)午前10時00分～
かしはら万葉ホール3階 教育委員会室

日 時 平成29年2月9日(木)午前10:00～

場 所 かしはら万葉ホール3階 教育委員会室

出席者

【委員】

会 長	坂根 満
副会長	西村 洋子
委 員	米田 勝彦
委 員	名草 康之
委 員	川西 香子
委 員	狩野 晃三
委 員	榎並 敦子

【事務局】

教育長	吉本 重男
魅力創造部長	山崎 貴浩
同副部長	田原 勝則
文化振興課長	西村 明
図書館長	福西 繁
文化振興課長補佐	吉谷 省三
同課統括調整員	工藤 桂市
同課統括調整員	永田 豊

● 館長 定刻になりましたので、ただいまより平成28年度第2回橿原市図書館協議会を開催致します。本日は委員の皆様方にはご多忙の中、お足元のお悪い中、ご出席いただきましてありがとうございます。

本日、7名の委員さん全員の出席をいただいておりますので、『橿原市立図書館の管理運営に関する規則』第22条の規定により、この協議会が成立していることをご報告致します。

なお、この会議は公開となっております。議事録は情報公開の対象となっており、図書館のホームページ等に掲載されますので、予めご了承ください。なお、本日の傍聴希望は、ございません。

会議に先立ちまして、橿原市教育委員会 吉本教育長よりご挨拶申し上げます。

－ 教育長 挨拶（省略）－

●館長 それでは図書館協議会委員のご紹介をさせていただきます。

（省略）

●館長 次に事務局の紹介をさせていただきます。

（以下同様省略）

●館長 それでは、議案審議に入る前に資料の確認をお願いいたします。資料は事前に配布させていただいておりますが、一部差し替えがございます。本日お配りしております資料の一番上の資料1の差し替えをお願いいたします。申し訳ございませんでした。それでは資料の確認をさせていただきます。橿原市図書館協議会次第、橿原市図書館協議会委員名簿、資料1「平成28年度図書館費支出状況」、資料2「平成28年度図書館利用状況」、資料3「平成28年度図書館行事報告書」、資料4「学習席利用状況」、資料5「平成28年度図書館協議会視察報告」、議案1「平成29年度図書館予算(案)」、議案2「平成29年度図書館事業計画(案)」、新たにお手元に配布させていただきました「秋の読書週間」チラシ、図書館だより「樫の樹」第36号、「図書館福袋」チラシ以上です。

資料は、揃っていますでしょうか。もし、ない方がいらっしゃいましたらおっしゃってください。

●館長 それでは、これより先の議事進行について、坂根会長、よろしく願いいたします。

●会長 （冒頭挨拶省略）

●会長 会議の議事録署名者について、前回に続いて榎並委員にお願いしたいと思うのですがいかがでしょうか？

●委員 わかりました。お引き受けします。

●会長 それでは、平成28年度事業報告について、資料1の図書館費の支出状況について、事務局から説明をお願いします。

●事務局 3ページの資料1 図書館支出状況をご覧ください。上の表が一般会計対比表になっております。下の表の図書館費内訳をご覧ください。左から平成26年度決算額、27年度決算額、28年度予算額、一番右の列が12月31日時点の支出状況です。今年度は協議会の開催時期が例年より少し早まりましたので12月31日時点の数字になっております。ご了承ください。今回はこちらの支出状況の説明を主にさせていただきます。

表の一番上、非常勤職員賃金・社会保険料等は非常勤2名臨時1名合計3名に対し、329万9千874円。その下の段、図書等購入費は754万8千766円となっております。

ります。図書購入費の内訳としましては貸出用図書、禁帯出図書618万4千6円、新聞、雑誌等刊行物92万4千59円、日本法規等の加除式図書44万4千301円になっております。下の委託料です。これにはカウンター業務、図書返却ポスト回収業務、データ入力業務が含まれ1千81万4千688円となっております。次の使用料ですが、図書館システム機器やコピー機の使用料としまして1千548万5千889円。図書整理用消耗品費は90万6千946円。印刷製本費は19万5千450円。電話料金、郵便料金の通信運搬費は46万4千383円。報償費、会場使用料等が含まれます講座行事等としまして39万9千607円。旅費修繕料等で47万9千91円支出しております。

図書館管理運営費 合計 3千959万4千694円、それに常勤職員人件費6千459万2千30円と報酬給与費9万円を合わせまして図書館費合計1億427万6千724円で12月31日現在の執行率は74%となっております。年度末にはほぼ予算通りの執行となる予定です。以上報告を終わります。

● 会長 ただいまの説明について、ご質問やご意見はございませんか。

質問がなければ、図書館支出状況についてはこれで終わりたいと思います。次に資料2の図書館利用状況について、事務局から説明をお願いします。

●事務局 4ページの資料2をご覧ください。平成28年度図書館利用状況（前年と比較）となっております。右の列が本年度の平成28年4月から平成28年12月31日まで。比較としまして左の列に昨年度の平成27年4月から平成27年12月31日までの数字が入っております。今年度、開館日数は223日開館しております。新規登録者数は1千716人で前年比-11%。内訳としましては16歳以上946人、15歳以下770名です。貸出者数9万9千193人で-4%。個人貸出冊数は32万2千607冊で-4%。内訳は一般書17万4千308冊、児童書12万9千339冊、雑誌1万8千960冊です。団体貸出冊数としまして1万8千414冊で+3%、内訳としまして一般書642冊、児童書1万7千772冊です。のべ利用団体数は130団体です。予約件数2万4千252件、レファレンス件数2千963件となっております。以上報告を終わります。

● 会長 ただいまの説明について、ご意見やご質問はございませんか。質問がないようですので、図書館利用状況についてはこれで終わりたいと思います。次に資料3の図書館行事報告について、事務局から説明願います。

● 事務局 資料3ですが、5ページから11ページ、A4横の資料をご覧ください。まず、5ページから説明します。こちらは毎週行っております、おはなし会です。参加人数の方は平成27年度、平成28年度、それぞれ4月1日から12月31日までの数字です。比較の数字の読み上げは省略させていただきます。子ども読書の日の関連行事ですが子どもの育ちと本、赤ちゃんが絵本とであれば、ぬいぐるみ限定図書館おとまりプラン、きてみておはなし会を開催しました。こんな本読んでんねんは今年度は377作品の応募がありました。続いて6ページをご覧ください。図書館読書の秋イベントですがこちらは本日お配りした資料をご覧ください。こちらのチラシの裏側に榎原市制60周年、かしはら万葉ホール・図書館20周年記念事業として

「蕨内正幸原画展」を11月17日から26日まで万葉ホールの展示ギャラリーで開催し、来場者が501名ありました。最終日の26日「蕨内正幸の世界」ギャラリートークを開催し、51名の参加者がありました。同じく記念行事として「斎藤惇夫氏講演会 いま子どもの本に思うこと」を11月23日に開催し、83名の参加者がありました。こちらの講演会につきましては本日お配りしました「櫃の樹」第36号の2ページから3ページに概要を掲載しておりますので後ほどご覧ください。続きまして7ページをご覧ください。今年度初めて「図書館福袋」という行事を行いました。本日お渡しした緑色の資料がその内容です。平成29年1月5日から本の面白さを訴えるために、職員が考えたテーマに沿った本を3冊を1セットにして福袋として貸し出す行事を実施しました。テーマがわかるだけで袋の中身がわからない面白さも手伝って用意した児童向け福袋11個、大人向け福袋30個は3日で全て貸し出しされました。続きまして8ページですが、図書館の資料展示、作品展示の一覧となっております。こちら図書館が魅力創造部、市長部局に移りましたので他課との連携・協力を重視し実施しました。以上で行事報告を終わります。

- 会長 ただいまの説明について、ご意見ご質問はございませんか。

- 委員 図書館福袋は私も楽しみにしてまして、私が借りた分なんですけど、図書館の方の手作りのこのような袋に入っており、9日にも行ったのですが職員の方に聞くとすべて貸し出しされたとのことで、私自身もうれしく思いました。できるだけお金をかけずに手作業で、したとお聞きし、これからも本への興味を高めるような試みを経費をかけずにしていただけるよう来年も期待しています。

- 委員 ちなみその袋には何が入っていましたか。

- 委員 タイトルが「江戸の画家×動物＝めちゃくちゃかわいい」で浮世絵や絵巻物の犬猫、おぼけの本でした。

- 委員 私も友人から聞いたのですが、パッケージもすごくかわいくて、手書きポップも魅力的で、すごく良かったとおっしゃっていて、貸し出しのレシートもすぐに封をされて、借りた方に見えないようにされて、また貸出画面も見えないように気を配られていて、図書館が大きいことに取り組んでいるというのが感じられ、借りるほうもうれしかったとのことです。ただ、中のジャンルの話ですが、偏りがあったという意見も聞きました。神社の本だと神社の本ばかり入っていたりして、また来年もされるようであれば小説・ノンフィクションと写真集を混ぜてみるとか、ジャンルの違った本が入っていれば楽しかったのにと意見を聞きましたのでお伝えします。

- 会長 非常に評判が良いという話ですが、こうしたらもっと魅力的になるのではないかと意見があったらお願いします。

- 委員 開架でミニ展示をされていますが、面展示は本が見やすいし、手を伸ばしやすい。表紙は本の思い入れがありますので、ミニ展示はよく借りておられ、頑張っておられると思います。できればもう少し書架整頓をしていただければと思います。きれいに本を並べるというのはすごく大事なことだと思います。

● 委員 今、聞かせていただいて工夫されていることがわかりました。学校の図書館でも活用できるヒントになると思えました。校長会、教頭会でも図書館がこういう事業の成果を出している話をしたら、特に小学校の図書室は次の手を考えておられるのでありがたいかなと思えました。

● 委員 ビブリオバトルの話が出ていましたが、今年で4回目ですが、県立や各地のビブリオバトルで紹介された本、テーマになった本の展示、できれば常設の展示を考えていただけたらと思います。

● 会長 良い意見をいただいております、企画もいいという話ですが、また学校との連携等、行事を知らない人もいますので、PRもしていただいで来年はさらにいいものができるようお願いします。ビブリオバトルというのは先日新聞でも紹介されておりましたが、京大の先生が考えられ、本を読みなさいという上からの視点ではなく、この本を読んでこんなに良かったという発表をしたものから良いものを投票して、それを読むということだと思います。この図書館の独特のものを作っていただくようお願いしたいと思えます。他にご意見はございませんか。

● 委員 毎年、「こんな本読んでんねん」を図書館壁面に貼って、広報にも載せていますが、子どもたちが本をアピールする良い場で、今年、審査させていただいたのですが、出点数が少ない気がします。夏休み前に学校で要項を配られていると思いますが、各学校の取り組みの中で先生の手がそこまで回らないかもしれませんが、勧めていただければと思います。というのは、団体貸出しも増えており、朝の読書タイムも結構、みんな読んでいます。先生方に「広報のよ、展示されるよ」と子どもたちにお勧めしていただけたらと思います。

● 会長 他にご意見ないようでしたら、次に進めます。資料4の学習席の利用状況について、事務局から説明をお願いします。

● 事務局 資料4、12ページをご覧ください。学習席ですが、今年7月22日から8月31日までの期間で、のべ33日間、午前31回、午後27回開催しました。こちらについては檀原市内に住所を有する中学生、高校生を対象に、おはなし室に学習席16席を設けて、普段、図書館は自習禁止にしていますが、この期間だけ夏休みの宿題などをする席を設けました。結果として午前52人、午後58人、計110人の利用がありました。1回につき2人の方が利用された計算になります。曜日別では、やはり日曜日がよく利用され、36人となっています。以上報告を終わります。

● 会長 ただいまの説明について、ご意見、ご質問ございますか。

● 委員 この利用は多いと思われますか、少ないと思えますか。

● 事務局 予想した利用数よりは少ないと判断しております。理由については様々考えら

れますが、前回の協議会でも出ておりましたが、告知が抑制気味だったことが考えられます。このことについては昨日、万葉ホールとの部内の中で会議もし、もう一步踏み込んだ形で取り組んでいこうと捉えています。掲示物としてチラシ・ポスターを配布する形でPRしていくことになりました。平成29年度につきましては、28年度と同様にもう一度、おはなし室に学習席を設置する形で考えております。

● 委員 学習席について、橿原では常設ではありませんので、学習したいと思っても、橿原ではできないというのが定着しています。今の形でしたら、たまたま来たら学習席があったという数字ではないかなと思います。他の図書館、例えば田原本は朝早くから、すごい数の子どもや受験生が並んでいます。席の取り合いで「危ないです」って言っても走って席を取りに行くなど係りの人は大変な状態でした。わずかな席数でたくさんの子どもの子どもが集まったときの安全面など気をつけていかないとはいけないと思いました。十分ご配慮をお願いします。来たいという子どもはいると思います。

● 会長 例えば、受験生はどこで勉強しているのだろうといったことを考えると、喫茶店などで多くの受験生が勉強している姿を見受けます。他の人の視線があると、居眠りもせずに、コーヒーなどを飲みながら勉強に集中できるようです。田原本の図書館の様子に触れた発言もありましたが、そういったことも踏まえて、取り組んでいただけたらと思います。

● 会長 他に質問がなければ、学習席の利用状況について、を終わります。次に奈良県立図書情報館視察について、事務局から説明をお願いします。

● 事務局 前回図書館協議会の事業計画でご説明しました研修会を10月18日、奈良県立図書情報館様のご協力を得て実施いたしましたので概要をご説明します。

参加者は資料に記載のとおりです。当日は図書情報館副館長様はじめ実務責任者の各係長様の説明・解説を得て、有意義に予定を終了させることができました。副館長様には改めてお礼を申し上げます。また、図書情報館様からは「10周年記念誌」等有意義な資料のご提供も受けました。協議会各位様と図書館今後の図書館協議会の審議や市立図書館運営の参考として活用させていただきたいと捉えています。当日の様子については、お手元の資料をご参照ください。

● 会長 視察の解説の中で強く印象に残っているのは、県立図書情報館は従来の図書館ではなく、図書と情報の館であるとの説明でした。情報という点について、非常に重視されているなど理解しました。館内においてもITサービスや書庫の機械化など、公共施設として一步先を歩んでおられる様子を教えていただいたと捉えています。今、図書のペーパーレスということが言われ始めています。以前と較べて、図書もカラフルになり紙質も良くなりましたが、そうした改良に留まらず、端末などのIT機材を介せば、膨大な量の図書を手軽に携帯できるようになっています。

客観テストの一例である大学センター試験などもそうですが、知識や情報のみに捕らわれ過ぎると、論述などの主観的な対応力がおろそかになってしまう面もあるのではとも思います。そうした二面性について、これからの時代はバランスをとっていかなければならないのではないのでしょうか。先ほど、話題となったビブリオバトルなどは、読者としての興味を土台にして主体性

を育むといった点で、興味深いと感じています。

●委員 県立図書情報館については、デジタルフォトスタジオの機能が素晴らしく、びっくりしました。利用者が自身で持参した材料を加工することができ、また様々な情報も吸収することができる。これからの時代は、情報やIT機能といった側面と、図書館としての従来からの役割と、両立させていくことができれば素晴らしいと思います。

●委員 先進的な設備の整った情報館の様子を拝見して、私もうれしくなりました。情報化といった流れに、的確に対応していくといった面と、これまでの紙による記憶・記録といった面と、両方大切であると改めて感じました。特に子どもたちにとって、直接手にとることのできる紙媒体の図書は、何物にも変えがたい存在感や役割があると思います。すべての図書館にいえることと思いますが、図書館が担っている役割やサービスは、数値化して価値を評価するといったことが難しい分野ではないかと思えます。文化や教育が担っている役割や特性を理解して、数値的に効果がないから止めるというのではなく、地道に継続していくことが大切な分野であると思えます。

●委員 機械化された自動書架の収納が独特なことが興味深かった。従来のマンパワーによる書架は分類記号に従って配架されているが、自動書架では、図書の版形によって物理的に収納されていた。ただ、整理はコンピューターが自動管理してくれるので、分類の規則性に従う必要はなく、物理的な空間がもっとも有効に活用できる方法であるとの解説を聞いて、なるほどと納得しました。古文書の収納庫も見せていただいて、「やっぱり図書館というのはこういう所だな、貴重な文献を大切に保存しておく機能も重要な役割だ」と納得しました。また、当日解説を担当してくださった情報館の係長さんが、非常にすばらしい方で感動しました。長年、図書館での勤務を重ねられてきたと伺いましたが、図書と図書館に対する思いの強さがひしひしと伝わってきて、図書館に限らずどんな分野でもそうだと思うのですが、物や環境も大切であると同時に、関わる人も大切なのではと思いました。

●委員 文化が数値で測りにくい分野であるといったご指摘はまさにそのとおりであると思えます。また、数値化して評価することが、はたしてふさわしいのだろうかといった思いも生じます。施設としては、社会との折り合いをつけるために、利用者数の中身も問いながら、取り組んでいこうとしています。県立図書情報館としては、貸出数が漸減しているといった現象もあり、読む力の醸成とイベントの距離を近づけていくことも大切ではと捉えています。最先端の取り組みとのお褒めをいただきましたが、まだ途上で、モバイル利用による一般書としての電子書籍については、導入できていません。もっとも、電子書籍については、権利として図書館に与えられているものが、現時点では様々な制約や限度があります。そうした現状も踏まえた上で、とりあえずは導入を視野に入れたいと捉えています。

電子書籍については、一般書を電子化導入して終わりではなく、電子書籍特有の特性があると捉えていて、それを活かせるような方法も想定しています。紙ベースの図書が、単独で静かに閲覧読書するものであるのに対して、電子書籍は、人と人が交わって連携しながら同時に共有できる面がある。仮にですが、例えば、にぎやかな図書館とも仮称できるような一画を設けることができたらといったアイデアも持っています。県立図書情報館では、イベント事業での実績や経験を有しているので、交流ゾーン、創造できるコーナーのようなものも模索してい

けたらと捉えています。

●会長 他に質問がなければ、奈良県立図書情報館視察について、を終わります。次に、「議案」(1)平成29年度図書館予算(案)について、事務局から説明をお願いします。

●事務局 平成29年度の予算は、この3月議会において確定いたしますが、現時点での予算要求に伴う査定状況について、平成28年度との対比で説明いたします。先の第1回協議会において29年度事業の方向性の中でもご説明しました図書館資料費の確保を中心に、現時点での概要を説明します。

図書等購入費(備品図書を含む)について、平成28年度予算額8,693千円に対して、29年度査定額は9,057千円となります。金額ベースで36万4千円の増額となります。刊行物購入費については、平成28年度予算額1,658千円に対して、29年度査定額は1,642千円で1万6千円の微減となります。事務用消耗品(加除式追録)については、平成28年度予算額598千円に対して、29年度査定額485千円で11万3千円の減額となります。新聞製本代については、滞留していた3ヵ年分について、昨年の19万4千円で一括処理できたことから、29年度分については1ヵ年分のみの査定となっています。

以上の結果、28年度予算について計11,143千円であったのに対し、29年度予算については11,254千円が確保できる見通しです。

議会において原案可決された場合、前年比で111千円の増額となる見込みとなります。新聞製本代の見かけ上の減額を控除すれば、図書館資料費としては関係各位のご尽力の結果、実質的には20万円以上の増額が得られることとなります。

続いて、図書館管理運営費についてご説明します。平成28年度予算額5千3百84万1千円に対して、29年度査定額は5千4百万1千円となり16万円の増額となります。

●会長 ただいまの説明について、ご意見ご質問はありませんか。

●委員 図書館資料費として増額見込みとのことだが、予算の用途としては、どのような目算を立てておられるのでしょうか。例えば、団体貸出用の図書などは、私たち図書館関係者が選書の際に見ている限りでは、ここ数年は、新規に購入できていないように見受けられるが、そういったことも含めて、どのように対応されるつもりなのでしょうか。

●事務局 団体貸出用の図書については、過去には光を注ぐ交付金の交付年度等に集約して新規調達できたこともあったが、昨今についてはご指摘のとおりです。図書資料の新規調達については、この数年来、社会科学系や自然科学系など、記載内容の変遷がしばしば発生する分野を中心に、改善計画を立てて取り組んできました。取り組みの対象としては、当然団体用図書も入ってきますが、カット猶予分や増額分の予算をどう具体的に手当てしていくかは、選書実務の中で、各分野の出版状況や出版点数、図書館での利用状況も勘案しながら、個別にバランスをとっていかねばならないと捉えています。

●委員 刊行物購入費が減額となっていますが、雑誌の購入タイトル数を減らされるという

ことでしょうか。

●事務局 雑誌の購入については、数年前から入札制度を導入しています。入札額がどのように落ち着くか現時点では判断が難しいのですが、図書館としては購入タイトル数を減らす意図は持っていません。ただ、近年では、雑誌の終刊や休刊、発行刊号数の減数が増えてきていることから、結果的に購入総額が影響を受けることは考えられます。

●会長 他に質問がなければ、平成29年度図書館予算(案)について、を終わります。続きまして、平成29年度図書館事業計画(案)について、事務局から説明をお願いします。

●事務局 前回の協議会でご承認いただいた「29年度図書館事業の方向性」に基づき、29年度図書館事業計画(案)を作成しました。資料の「29年度図書館事業計画」をご覧ください。

先の第1回図書館協議会においてご承認いただいた29年度事業の方向性としては、図書更新の継続的な取組(改善計画)、社会情勢の変化に対応していくための方策(調査・研究)、その他の取組(27・28年事業の継続・改良)の3点となっております。この3点との関係性についても説明します。

29年度に着手する6事業の中から、主な事項について抜粋してご説明します。図書館資料収集事業について説明します。3月議会が終了しておりませんので、予算については未確定的なものとなります。29年度図書資料費については、28年度予算比で約102.15%を確保できる見通しです。総額ベースでは、約24万円の増となります。関係各位のご理解とご尽力が得られた結果と感謝しております。カット猶予分や増額分について、図書館協議会においてご承認をいただいております改善計画に充てることで、図書更新の継続的な取り組みに引き続き取り組んでまいります。

「利用サービス・情報提供事業」に移ります。この中には、今年度の障害者差別解消法の法整備への対応として更新・新規調達した「拡大器」と「読み上げ機 よむべえ」(併用デジ再生)＋モニターの供用や、今年度初めて実施しましたおはなし室を活用した学習席の提供を含んでいます。

「図書館広報事業」に移ります。前回や前々回の図書館協議会において、成人層を対象とした事業が手薄ではとのご指摘をいただいたことを踏まえ、昭和の文学作品を対象とする読書会や、初心者を対象とした古文書講座といった新規事業を予定しています。新規事業の展開については、社会の高齢化やニーズの多様化といった社会情勢の変化も視野に、今後も可能性を探ってまいりたいと考えています。

「読書推進啓発事業」、「図書館ボランティア関連事業」、「図書館管理運営事業」についてはお手元の紙面をご一読願います。

「29年度以降の事業計画について(方向性)」に移ります。環境の変化も踏まえながら、これまでの取り組みについて継続的に発展させていきたいと捉えています。

●会長 ただ今の説明についてご質問はありませんか。

●委員 2点伺いたいと思います。1点目は、機構改革に伴い図書館が教育委員会から市長部局に編入替えとなったことについてです。一応の説明については既に伺ったが、一委員

としては、いまだに釈然としない面もあります。市長部局に移ったことの、行政としての目的や意図があったとした場合、この1年の経過の中でそれらがどう達成されたのでしょうか。あるいは、何も変化しなかったのでしょうか。私自身が理解できていない面があるので、それらのことについて説明をお願いしたいと思います。

2点目は橿原市子ども読書活動推進会議についてです。先日、橿原市子ども読書活動推進会議の学校部会が開催されましたが、推進会議自体はここ数年開催されていないと思います。この2点についてお願いします。

●教育長 文化とスポーツについては、県では知事部局、市では市長部局で担当できることになりました。奈良県においても、文化とスポーツについては条例によって知事部局の所管となりました。橿原市についても、奈良県の対応から少し間を置いて後追いする形で市長部局へ移行しました。図書館についても、文化の一環として捉えられており、奈良県の方では地域振興の枠組みのなかでやっておられます。知の拠点、様々な学習機能としての側面から、こうした動きについて懸念をお感じになる場合もあるかとは思いますが、図書館が、図書館法等の関連の法規や社会的ルールに基づいて運営される以上、教育委員会の職員なのできちっとできる、市長部局の職員はそうではない、といった問題ではないと捉えています。自治体の職員として、教育委員会所属であっても、市長部局所属であっても、守らなければならないことに変わりはありません。長年慣れ親しんだ環境からの変化という点では、大変な面もあるかとは思いますが、図書館協議会の出席についても、教育長として出席を継続することで経過を見守ってきましたが、今後は徐々に市長部局としての形に移っていきたくと捉えています。

図書館に限らず、地方自治は変化を重ねていくと捉えています。橿原市としても、今後文化財行政も市長部局へ移ります。また、発達障害や虐待等の諸問題に対処するため、幼稚園も再来年、市長部局へ移ります。そうした事例と同列に扱うわけにはいかないが、図書館の在り方も、社会の変化に適応していかなければならないのではと捉えています。

●魅力創造副部長 教育委員会所属時の昨年度と、市長部局への編入初年度となった今年度を比較して、運営状況や運営方針について特段の変更点や変化、相違が発生したかといえば、なんら発生していないと捉えています。ただ、今後、施設としての万葉ホール全体の問題として、教育委員会が本庁舎へ転出していく中で、万葉ホール全体の活用策を模索していくこととなります。人が集客する施設として、子ども科学館、図書館、文化ホールを有する複合施設が、今後県立医大の移転や近鉄橿原線の新駅開設といった中長期的で包括的な流れのなかで、何らかの変化を遂げていく可能性は見込まれます。そうした可能性のなかで、図書館個別の問題としてではなく、万葉ホールをトータルに捉えるための市長部局への編入であるとご理解願えればと思います。

●会長 変化という点では、理解しにくい面もあるのだが、市長部局への移行については、奈良県内では主流となっているのだろうか。

●魅力創造副部長 奈良県が図書情報館を知事部局で所管されておられますが、市町村立図書館においては、今のところ市長部局でもっている当市以外の自治体はないように把握しています。ただ、全国的には、いくつもの先進自治体が存在しています。

●事務局 先ほどの委員のご質問の2点目について、ご説明させていただきます。橿原市子ども読書活動推進会議については、本日ご審議いただいている図書館協議会の協議事項とは別の枠組での取り扱いとなります。しかしながら、図書館協議会委員各位におかれましては、市立学校長や、子どもたちの読書活動を押し進める上で、様々なご尽力を頂戴しております各団体の方々がいらっしゃいますので、現時点でお話できることをご説明致します。

子ども読書活動推進計画の取り組みについては、初期の取り組み開始から5ヶ年を経た「5ヶ年のまとめ」後は、部会に重点を置いた調整と取り組みの実施をおこなうことになっています。このことについては、平成25年3月に開催しました推進会議で、関係者で合意されております。課題として残っているものや、継続が欠かせない取り組みについて、必要に応じて、取組内容別に、学校部会、家庭部会、地域部会、図書館部会を開催して意見交換や情報の共有、あるいは合意の形成に努めることになっています。関係各課や関係団体から意見を徴し、特別な事情や全体的な調整の必要が発生した場合には、複数部会の合同開催や、図書館長が推進会議を招集して審議を行うこととなっています。

次年度については、図書館部会の開催を想定しています。他の3部会については、情勢の推移や関係者のご意見も踏まえ、その都度、調整させていただきたいと捉えています。

●委員 次年度については、学校部会は開催されないという方向でしょうか。

●事務局 現時点では未定とのお答えになってしまいます。先の会議の中で、様々な課題の再確認や、近隣自治体の取り組みの進展について、関係者間で状況の共有を行いました。そのことによって、庶務方としては、具体的な取り組みを一義的に行っていただく各課に、ある種の提示をさせていただいたと捉えています。関係課に状況を認識いただいて、解決のための方策を模索いただくことが大切ではと捉えています。

具体的な取り組みについては、学校図書館については学校教育課や教育総務課、ブックスタートについては子育て支援課、健康増進課、図書館、ボランティアとの連携といったように、合議や相互補完といった連携を基礎にして、意見調整や役割分担を重ねながら実施しています。図書館がすべての取り組みについて、一方的にリードしていくという枠組ではありません。

ただ、庶務をお預かりしている立場として、関係者にお集まりいただくための機会を醸成することや、議論の前提や土台としての情報の収集や知見の共有について裏方的な役割をお引き受けすることを、今後も継続してまいります。

●委員 進捗状況の確認や情報・知見の共有について、関係者が定期的に意思疎通や意見交換を重ねることは大切ではないでしょうか。

●事務局 子ども読書活動推進会議の庶務は、市長部局の文化振興課に所属する図書館が担います。外観的には市長部局が取り扱っていますが、内実は教育委員会事務を文化振興課図書館が補助執行しており、子どもたちの読書活動の取り組みについても、機構改革の前も後も変わりなく、これまで通り特段の支障なく継続していると捉えています。先ほど副部長からの説明にもありましたように、現時点で、子ども読書の取り組みが機構改革の波及を受けているとは認識していません。図書の新規購入や学校サイドからのご要望への対応など、図書館自身も課題を抱えつつではありますが、バランスを取りながら取り組んでいきたいと捉えています。今後の部会の開催については、関係者のご意見や状況を見極めながら、模索してい

きたいと捉えています。

●会長 他に質問がなければ、平成29年度の図書館事業計画(案)について、議案審議を終わります。委員の皆様、議案(1)(2)について事務局案を了承してよろしいでしょうか。

●各委員 異議なし

●会長 事務局においては、議案内容をもとにして、予算を編成し、事業計画を具体化されるように願います。それでは、「その他」について、事務局から説明をお願いします。

●館長 「その他」については、委員の皆様から特段のご意見などがあった場合のために設けております。これまでの議事進行により、事務局として予定していました項目はすべて終了いたしました。副会長、あるいは各委員の皆様方からご意見などがございましたら、お聞かせいただきたく思います。

●委員 一新聞書評(毎日新聞高校生読書感想文入選作)からの読書紹介一

●委員 先の学校部会の会議では、学校図書館のことなどが議事に上がっていました。今後教育委員会の中で、学校の先生方や学校教育課の話し合いのなかで、学校図書館を活用した方法などもご検討いただければと思います。学校図書館については、各校の校長が館長をされていることと思います。校長会などでも、そういった話し合いがなされることを願っています。

●委員 学校図書館の運営については、小学校と中学校とでは、状況や事情等が全く異なっています。小学校の校長会、中学校の校長会、それぞれに分けて対応していかなければならないと感じています。読書活動で得られるものというのは、すぐに表面に現れてくるものではないとも捉えています。今、様々な場所で、思いを伝えたり、表現することが大切だと言われますが、思いの伝達や表現の多くも、時間の流れの中では消えていくものではあると思います。簡単には評価ができない難しい側面があります。しかし、文字として残っていったもの、文章化されたものは、安定的で後々までしっかりと残り、じっくりと味わうことができ、確認することができるものです。ところが、実際に書かれたものを拝見するに、個性や魅力を感じるものに出会うことが少ないように思います。論文なども手書きされることが少なくなり、一方でコピーが蔓延する中で、氾濫する情報を、デジタルの中で巧みに切り貼りしているのではないだろうかと感じることがあります。ひとりひとりの子どもたちを見守る学校関係者のひとりとして、書かれたものを読んだ瞬間に、「ああこの子は……」といった個性を感じられるものが自ずと出てくるような人間に導いていけたらと願っています。

●委員 学校図書館は、第二の保健室と呼ばれることもあるようです。教室に居場所を見つけれない生徒や、つらいと感じる生徒が、休み時間だけでも、学校図書館に来て一時的に居場所を確保できることでひと息つく。そして授業が始まったら、また教室に戻る……。そうした機能も学校図書館は果たすことができるとお聞きしたこともあります。

●委員 学校図書館だけではなく、市立図書館にも言えることですが、本や書籍に魅力を感じて利用する場合と、場の雰囲気や様子に魅力を感じて利用する場合があるので、両方の価値があることを捉えなければならないと思います。心理的な不安や懸念を抱えている子どもたちも存在する中、相談室的な役割を学校図書館が担っている場合もあります。学校図書館には図書準備室もあります。閉ざされた空間が、子どもたちにとってほっとできる貴重な居場所である場合もありますので、様々に模索していきたいと思います。

●委員 子どもたちだけでなく、おとなの読書という視点からも、学校の先生方が学校図書館を教材や資料の宝庫として積極的に活用していただいたり、図書館の資料を活用した授業を展開していただくことで、子どもたちも図書館を利用するようになるという良い影響が出てくると思います。

●委員 昨年、当校でも教師のおすすめの本を出し合ひしようという取り組みをしましたが、アニメの多いことに驚きました。ただ、作品としては魅力的なものだったので、時代として、それはそれで良いのではとも感じました。教職員間でも、情報の共有や交換などにも取り組んでいきたいと考えています。

●会長 他に特段のご意見などが無いようですので、協議会の議事としては以上で終了いたします。議事進行にご協力いただき、ありがとうございました。

●館長 委員の皆様におかれましては、長時間にわたりご審議いただきましてありがとうございました。本日、ご審議いただいた内容を真摯に受け止め、今後の樫原市の図書館行政に反映して参りたいと思います。最後に山崎魅力創造部長よりご挨拶を申し上げます。

●魅力創造部長 本日は貴重な多数のご意見やご指摘ありがとうございました。図書館行事の報告では、おほめの言葉や参考とさせていただきたいアイデアも頂戴しました。これからも、図書館の楽しさ、奥深さ、人生に与えるものや生活を豊かにする役割、本の世界が持っている不思議さなどについて、伝えていけたらと思います。2月11日から葛城地区で地方創生事業の一環として制作された「天使のいる図書館」という映画が上映になります。奈良県の図書館について大きな刺激になるのではないかと捉えています。

来年の2月に新ホテル庁舎が完成して教育委員会が移ります。またナビプラザや保健センターからも部署の異動が見込まれます。そうした動きに伴い生じるスペースについても、今後活用法を模索していくことになるかと捉えています。今後、ご意見等おうかがいする場合がありますので、よろしくお願い申し上げます。

●館長 これをもちまして、樫原市図書館協議会を閉会いたします。今後におきましても、樫原市立図書館の運営に更なるご支援、ご協力を賜りますよう宜しくお願いいたします。

本日は、ありがとうございました。

(閉会)